中国建道管発第１号

昭和36年１月10日

関係工事事務所長　殿

中国地方建設局長

舗 装 台 帳 の 調 製 について

標記については、別記舗装台帳作製要領により調製されるように通知する。

記

１　実施期日　36年４月

２　要領では測点は距離標によるようになっているが、ないところは測点番号によること。

３　修繕工事のみならず改築（舗装）もこの要領によること。

４　様式は12月11開催の技術課長会議の際配布ずみであるから参照のこと。

５　従来の舗装台帳はやめてこれによること。

道　　発　　第295号

昭和35年７月25日

中国地方建設局長　殿

道　路　局　長

舗 装 台 帳 について

一級国道指定区間の維持の効果的経済的な運営をはかるため、記録資料として舗装台帳を作製することとしたので別添「舗装台帳作製要領」により調製されたく通知する。

なお、現在指定区間に指定されていない区間であっても直轄舗装を実施箇所は本要領により台帳を作製するよう措置されたい。

舗 装 台 帳 作 成 要 領

昭和35年７月

道　　路　　局

Ⅰ　目　　的

道路の交通に支障のないように、長期にわたって維持するためには、道路の現況と経歴を詳細に把握する必要がある。舗装台帳は、この目的に即して道路の現況、経歴および維持、修繕、改築、工事等を記録し、道路の維持の効果的、経済的な運営を図るものである。

Ⅱ　管　　理

舗装台帳は、上記の目的に沿って作製されるものであるから、維持を担当する各工事事務所および出張所においては、正確な記入、完全な保管、効果的な利用をはからなくてはならない。

本台帳は（指定区間、改築区間）の全線について作製し、保管は工事事務所の責任とする。

Ⅲ　法　　式

様式は次の３種類とし、別紙の通りとする。

様式-Ａ　道路の現況調査を主体とするもの

様式-Ｂ　路面の維持、修繕の記録を主たる目的とするもの

様式-Ｃ　同　　上

なお、用紙は厚紙で裏打し、長期保存に耐えるようにする。

Ⅳ　記入要領

１-様式-Ａ

（１）地　　名

平面図の起終点の市、町、村、および字を記入する。

（２）延　　長

平面図の道路延長を記入する。

（３）巾　　員

車道巾員および車道舗装巾員を記入する。

（４）舗装面積

舗装工種毎に面積（単位㎡）を記入する。

（５）路線名

国道名（国道番号）を数字で記入する。

（６）府県名

都道府県および五大市名を記入する。

（７）図面番号

図面番号は、杭標番号を基準として整備し、例に示すように前の数字には杭標番号を、後の数字には杭標内の頁数を記入する。平面図に２つの杭標番号のあるものは、後の番号を記入する。

例：35　　２

↓　　↓

杭標番号　　35㎞の範囲内の２枚目

（８）平面図

①　縮　尺　　$\frac{1}{500}$　$\frac{1}{1000}$

②　中心線に沿って地点標（杭標および 100 米標）および 20m毎に位置を記入する。

分子に杭標の数、分母には杭標よりの延長を記入する。

例：杭　　標　$\frac{35}{0}$　（35 杭）

100米標　$\frac{35}{350}$　（35杭300米）

③　図の左側を路線の起点側とする。

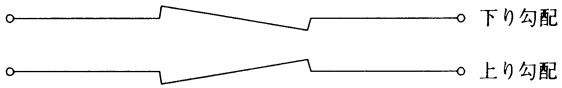
④　舗装の形状、目地および附帯構造物（側溝、擁壁、暗渠、橋梁等）を主体とし、あわせて周囲の状況、地勢等を記入する。切土、盛土の区別を法等により明確にさせる。

⑤　直角曲り、急角度に曲るものについては、附近の状況が分るように適当に分割し離して記入する。

（９）曲　線

曲線長ＣＬ、曲線半径Ｒ、直線長Ｌおよび片勾配Ｓ（単位%）を記入する。

(10) 縦　断



(11) 柱状図

柱状図は当該区間の過去の資料および調査、改築、修繕等が行われた場合の

資料に基づいて記入する。(記入例参照)

記入事項は次の事項につき記入するが、不明な事項については漸次調査の上記入し又次の事項以外でも必要な事項を適宜記入する。

① 位置および範囲

調査の場合は位置を平面図に明記する。改築または修繕工事で、道路の構造が明確にわかるものについては、その範囲を示す。局部的に打換えたものについては斜線を引いて範囲を明確にさせる。

② 年月日

調査および施工の年月日を（　）内に記入する。

③ コンクリート舗装

（イ）版

○版　厚（単位cm）

○強　度（単位kg/cm²　圧縮強度：σc　曲げ強度：σb）

（ロ）路　盤

改装の舗装では路盤工法および施工方法を記入する。

○厚（単位cm）

○M：最大骨材寸法（単位mm）

○ｇ：砂利・砂率（単位%）

(注)砂利・砂率(Gravel-Sand-Ratia)は全骨材量に対するNO.８篩(2.38mm）に残留するものの百分率である。

（ハ）路　床

○土の分類は改訂PR法による。

○ＰＬ：塑性限界（単位%）

○ＬＬ：液性限界（単位%）

○W：自然含水率（単位%）

○ＣＢＲ：路床支柱力比（単位%）

④ 歴青系舗装

（イ）表　層

○厚（単位cm）

○Ａ：アスファルトの量（単位%）

○M：最大骨材寸法（単位mm）

○ｇ：砂利・砂率（単位%）

○アスファルトの量（針入度等）

（ロ）基　礎

セメント、コンクリート系であれば、セメント、コンクリート舗装の版、歴青系であれば表層の表示法によること。

（ハ）路　盤

コンクリート舗装の路盤の表示による。

（ニ）路　床

コンクリート舗装の表示法による。

⑤　その他

修繕等により、在来舗装を打換えるときに、平板載荷試験により在来および、新規の路盤路床の支持力を測定して記入する。

(12) 改良、舗装の経歴

当該区間についての改良、舗装、および修繕の施工年度、事業主体、施工者、事業費について記入し摘要欄にはその範囲を記入する。

(13) 横断図

代表的横断図を記入し、巾員構成および寸法を明記する。

(14) 舗装の構造図および配合

①　コンクリート舗装

○目地構造図、配筋図、配合、強度等について判っているものがあれば記入する。

②　歴青系舗装

○工法、施工方式、配合等について判っているものがあれば記入する。

Ⅴ　法式-B

（１）～（８）様式Ａと同様

（９）平面図

様式-Ａの平面図と同様であるが、路面の形状、目地および破損の状況等について記入する。

また修繕工事で打換え、被覆したものを別に記入出来るよう充分余裕を取っておくこと。

(10) 記　事

維持および修繕工事すべてについて年月日、施工区間、工種（記号の各欄および摘要欄に工法の概要を記入する。）

① 維持工事

維持工事の工種記号および平面図に記入の要否は次の通りである。

工　種	工　種　の　説　明	単位	平面図に記入の要否
A	セメントコンクリート舗装の維持		
A-a	目地亀裂の填充	㎡	否
A-b	欠損部処理	〃	要又は否
A-c	コンクリートによる局部的打換	〃	〃
A-d	応急修理	〃	否
A-e	注入工法による修理	〃	要
B	歴青系舗装の維持		
B-a	パァチング	㎡	否
B-b	表面処理	〃	要
B-c	波状表面の整正、すべり止め、フラッシュの処理	〃	要又は否
B-d	応急処理	〃	否

② 修繕工事

摘要欄には次の事項を記入する。

（イ）コンクリート舗装版

厚、強度、示方配合、目地構造、配筋その他工事上、工法上特記すべき事項

（ロ）歴青系舗装

工法、施工方式、配合、安定度その他工事上、工法上、特記すべき事項

（ハ）路　　盤

厚、最大骨材寸法、砂利・砂率、密度支持力係数その他工事上、工法上特記すべき事項

Ⅵ 法式-C

様式-Bの平面図がない記録欄のみのもので、記入事項は様式-Bと同一である。

Ⅶ その他

道路台帳の記入事項と重複する部分については、内容が矛盾せぬよう注意すること。

道 路 標 識 台 帳

道路標識の設置後の維持管理については、特に留意することとし、道路パトロール員および作業員による定期的な巡回、点検により、標識板等が、その効果を失っているものは、清掃、あるいは補修（柱の曲り直し、板取付部の締直し、板、支柱の塗りかえ）蔭ぺい物除去等の作業を実施し、常に完全な形に保つよう努めるものとする。

また、設置した標識の位置、設置年月日、その他標識の管理に必要な諸元を台帳及び図面に整理保管し、維持管理の一環として役立てるものとする。その台帳及び図面等は下記によるものとする。

（１）維持管理の実施上、道路標識（案内、警戒等道路管理者施工分）には一連番号を付して台帳および図面に記載するものとし、その様式は別紙様式-１、様式-２のとおりとする。

（２）標識の設置位置図として、５万分の１図を使用し一連番号および記号を別紙参考図に基づき作成する。

なお、台帳と位置図は照合できるよう整備する。

（３）標識板の裏面には下記様式により、設置者名、設置年月日を黒色にて印刷する。

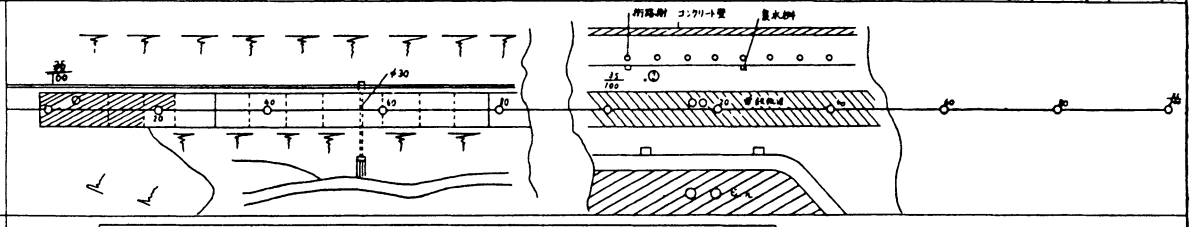
別添に記入しているので下記によるものとする。

台帳等の名称	別添の頁	用紙の規格等
道路標識台帳　様式－１	12	Ｂ５判　横書き
道路標識台帳総括表　様式－２	14	〃　〃
街路樹現況表		
街路樹、並木現況表	17	〃　〃
植樹帯現況表	17	〃　〃
保安設備現況表		
防護柵台帳	18	〃　〃
道路照明台帳	18	〃　〃
〃　様式－２	19	Ｂ４判　縦書き
道路情報板調書	20	Ｂ５判　横書き
〃　台帳	21	〃　〃
トンネル調書	23	〃　〃
〃　台帳	24	〃　〃
防災施設調書	25	〃　〃
〃　台帳	26	〃　〃

様式-A

舗装台帳

地名	○○市 ○○区 ○○町	延長	200m	舗装巾員	7.5m	舗装面積	合計	C O	A S	路線名	2	備考		縮尺番号	S2—2 S=1/500
				車道巾員	10m		1.500	—	1500						



曲線 CL=100m R=200 C=4%

縦断 2%

柱状図

No1 調査(34-5-20)

コンクリート	H=20	σc=220	
砂	H=5	M=5	g=90
		K30=10	
ローム	H=60	A-7-6	PL=30
	W=28	CBR=8	LL=40

35/100 ～ 35/130 打撃部分(34-7-28)

コンクリート	H=23	σc28=300	
路盤	H=15	M=70	g=75
		K30=15	
切込砂利	H=30	M=70	g=30
		K30=10	
ローム		A-7-6	PL=30
	W=28	CBR=8	LL=40

35/100 ～ 35/300 全面被覆(34-9-15)

アスファルトコンクリート	H=5	A=00	M=00
			g=00
存在舗装			

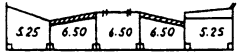
No2 調査(34-5～20)

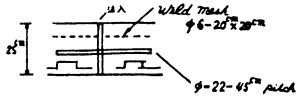
トベカ	H=3	A=00	M=00
			g=00
アスファルトマカダム	H=5	A=00	M=00
			g=00
水締マカダム	H=10		M=00
			g=00
ミルト	H=30	A=4	PL=00
		W=00	LL=00

備考

	改良	舗装	修繕
施工年度	昭28	昭30	昭31
事業主体	建設省	建設省	○○県
施工者	西松	直轄	○○KK
事業費	64.000 千円	48.000 千円	5.000 千円
施工	36/451 ～ 38/451	36/451 ～ 39/385	36/330 ～ 36/630

○ 横断図





○ 示方配合および強度

W/C	○ %	σc28=kg/cm²
セメント	○ kg	σc28=kg/cm²
砂利	○ kg	
砂	○ kg	
水	○ kg	

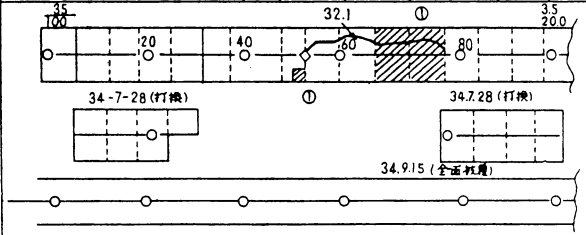
規格B列3

舗　装　台　帳

様式-B

地名	○○市○○区○○町	延長	200 m	舗装巾員	7.5 m	舗装面積	合計	C O	AS	路線名	1	府県名	○ ○	図面番号	35-1.2 S=1/500
				車道巾員	1.0 m		1.500	—	1.500						

平面図



記事

年月日	記号	工種	数量	摘要	年月日	記号	工種	数量	摘要	年月日	記号	工種	数量	摘要
34. 4. 27	1	A − s	3m²	厚さ25 m										
6. 20		A − a	500m²	セロシール○○m										
6. 20	2	A − e	45m²	セメント −Kg 水 − ℓ 砂 エ −Kg										
34. 7. 28		修繕コンクリート打換		コンクリート厚さ 23cm セメント○○Kg W/C = ○%										
～ 7. 30		35/106 ～ 35/130 = 24m		砂 ○○Kg 砕石(M−40) ○○"										
		35/178 ～ 35/202 = 24m		水 ○○Kg σc 28 = 300 Kg/cm² σb = 00 Kg/m²										
				水締マカダム H = 15 M = 70 8 = 60 K 30 = 15 目潰砂利										
				H = 30 M = 70 8 = 20 K 30 = 10										
34. 9. 15		全面板覆	1.500m²	アスファルトコンクリート										
～ 9. 15				厚 = 5cm 1m³当り アスファルト ○○Kg										
				砕石(○○mm-○○mm) Kg 砂 ○○										
				フィラー ○○ 目潰剤 ○○										
				フィニッシャーにより施工										

規格B列3

様式-C

舗　装　台　帳

地名	○○市○○区○○町	延長	200m	舗装巾員	7.5m	舗装面積	合計 1,500	Co	AS
				車道巾員	10m			—	1,500

路線名	1	所属名	○○	図面番号	35－2

年月日	施工個所	工種	数量	摘要	年月日	施工個所	工種	数量	摘要	年月日	施工個所	工種	数量	摘要

B列 3

様式1

道路標識台帳の例

(表)

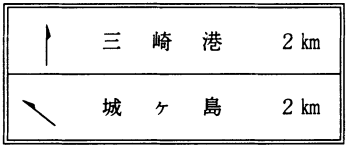
No	
記号	

出張所名	○○維持出張所				標識種別	(案内標識)			
位置	路線名 (主 横須賀 三崎線)				設置個所 (三浦市川崎町字原)				
車道幅員	(7.5m)	路肩幅員	(0.50m)	車道端からのクリアランス	(0.60m)	標示高	(1.80m)	制限速度	(60km/h)

標識歴	拡大率	標識板	反射照明方式	設置形式	支柱	基礎形式	工事費	製作会社
(39年7月新設)	(1.5)	鋼板 t =1.6m/m メラミン焼付	(スコッチライト)	(B(鋼管2本))	(s{φ m/m 長さm})	(a根かせ使用)	(8,000)	(○○株式会社)
年 月								
年 月								
年 月								
年 月								

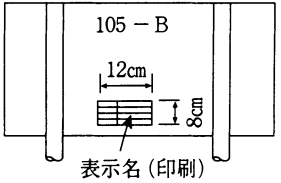
板面記載事項

表面



(80cm × 160cm)

裏面



（裏）

現　況　写　真

設置箇所見取図

様式2

道路標識台帳総括表

都道府県名＿＿＿＿＿＿＿＿　　路線名＿＿＿＿＿＿＿＿

道路延長(A)＿＿＿＿＿＿＿＿　　県境箇所数＿＿＿＿＿＿＿＿

交差箇所数＿＿＿＿＿＿＿＿　　市町村境箇所数＿＿＿＿＿＿＿＿

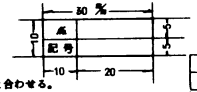
標識の種類		○○○	○○年度			○○年度			○○年度			○○年度			○○年度		
			廃棄	新設	計	廃棄	新設	計	廃棄	新設	計	廃棄	新設	計	廃棄	新設	計
案内標識	101																
	102 A																
	105 A, B, C																
	106 A																
	108 A																
	114 A																
	118 A																
	その他																
	計(a)																
	(a)/(A)																

様式2

警戒標識	201 A～D 202～206 207 208 209 その他 計 (b) (b)/(A)																
規制標識	320 321 322 その他 計 (c) (c)/(A)																
合計（ a ＋ b ＋ c ）																	

別図（例）

注）1．記入欄寸法



2．図記号は台帳と合わせる。

平面図

図	54
記号	105−B

図	52
記号	101

図	51
記号	201

図	48
記号	108の3(テ)

図	47
記号	105−B

図	46
記号	105−B

図	55
記号	105−B

図	53
記号	101

図	49
記号	108の3(テ)

図	50
記号	105−B

街路樹、並木現況表

○○工事事務所

路線名	区間（距離標）	年度別	延長 km	樹種	数量								摘要
					30cm以下	31～50cm	51～100cm	101cm以上			計		
2	岡山市○○～○○（　　km）		4.5	プラタナス									

植樹帯現況表（分離帯、ロータリー植栽帯）

○○工事事務所

路線名	区間	年度別	形状	延長	種別	数量					摘要
						45	46	47	48	49	
2	岡山市○○～○○			1.0km	芝 つつじ 草花	3,000m² 100本 2カ所					

（注）平面図を添付する。1/500～1/1000
街路樹と並木は別葉とする。
植樹帯現況表の種別は具体的に記入する。例えば高麗芝、○○つつじ等とする。
樹種毎に写真を貼付する。なお分離帯、ロータリー、植栽帯については全景写真とする。

防護柵台帳

○○工事事務所

路線名	設置場所（距離標）	左・右	歩道の有無	車道用											歩道用							備考
				ガードレール			ガードケーブル			ガードパイプ			その他	計	ガードレール	ガードフェンス	ガードレール		その他	計		
				A	B	C	A	B	C	A	B	C					H＝0.2～0.8	H＝1.1～1.2				

（注）：歩車道境界の防護柵（歩道用Ap、Bp等）については、車道用に含む。

道路照明台帳

○○工事事務所

路線名	設置場所（距離標）	左・右	延長	蛍光灯(W)					水銀灯					ナトリウム灯								その他				契約の種類
				15	20	30	40	60	100	200	250	300	400	35	40	55	60	90	135	140	200					

（注）　占用物件は（　）外書きとする。

様式2

道路照明台帳

記号	
カードNo.	

路線名　一般国道

ポール番号		照明種別	
設置場所	市郡　町	測点	K

1	工事名称		
2	竣工年月日		
3	工事金額		
4	工事費目		
5	施工業者名		
6 契約内容	A	契約名	
	B	契約番号	
	C	契約電力	KW VA 灯
	D	引込柱番号	
7 設備内容	A	電気方式	
	B	引込方式	
	C	配線方式	
	D	設備灯数	
	E	ポール基数	
	F	建柱方式	
	G	車道巾員	M
	H	光源高	M
	I	配列方式	
	J	ポール間隔	M
	K	照明率	
	L	保守率	
	M	設計照度	ℓx
	N	実測照度	ℓx
	O	点滅方式	
	P	調光方式	

8 基礎	A	基礎型式	
		〃	
		〃	
		〃	
9 測定	A	絶縁抵抗	MΩ
	B	接地抵抗	Ω
	C	電圧	V
	D	入力電流	A
10 設計内容（トンネル） 設計緒元	A	延長	M
	B	巾員	M
	C	高さ	M
	D	内面状態	
	E	車線、方向	
	F	設計速度	kM/H
	G	野外輝度	od
	H	灯具位置高	M
基本部	I	光源、器具	
	J	灯数、間隔	灯 M
	K	設計照度	ℓx
	L	実測照度	ℓx
入口部	M	光源、器具	
	N	灯数、間隔	灯 M
	O	設計照度	ℓx
	P	実測照度	ℓx

			型式	製作所名	容量	入力電圧	入力電流	入力電力	摘要
11 機器内容	A	照明ポール							
	B	照明器具							
	C	ランプ							
	D	安定器							
	E	自動点滅器							
	F	タイマー							
	G	分電盤							
	H	その他							

	年月日	異動、修理、その他	年月日	異動、修理、その他
11 経歴				

調書及び台帳を作成し１／50,000の図面（別紙記入例により）を添付する。

道路情報板調書

番号	路線名	設置場所（距離標）	形式	規格	備考
					遠隔操作等記入

道路情報板台帳

整理番号

出張所名	○○維持出張所	情報板種別	○　型（遠隔操作）
路線名	○○号	設置場所	県　市　大字　字 （距離標　・km）

車道幅員	m	路肩幅員	m	車道端からのクリアランス	m	標示高	m	制限速度	km/h

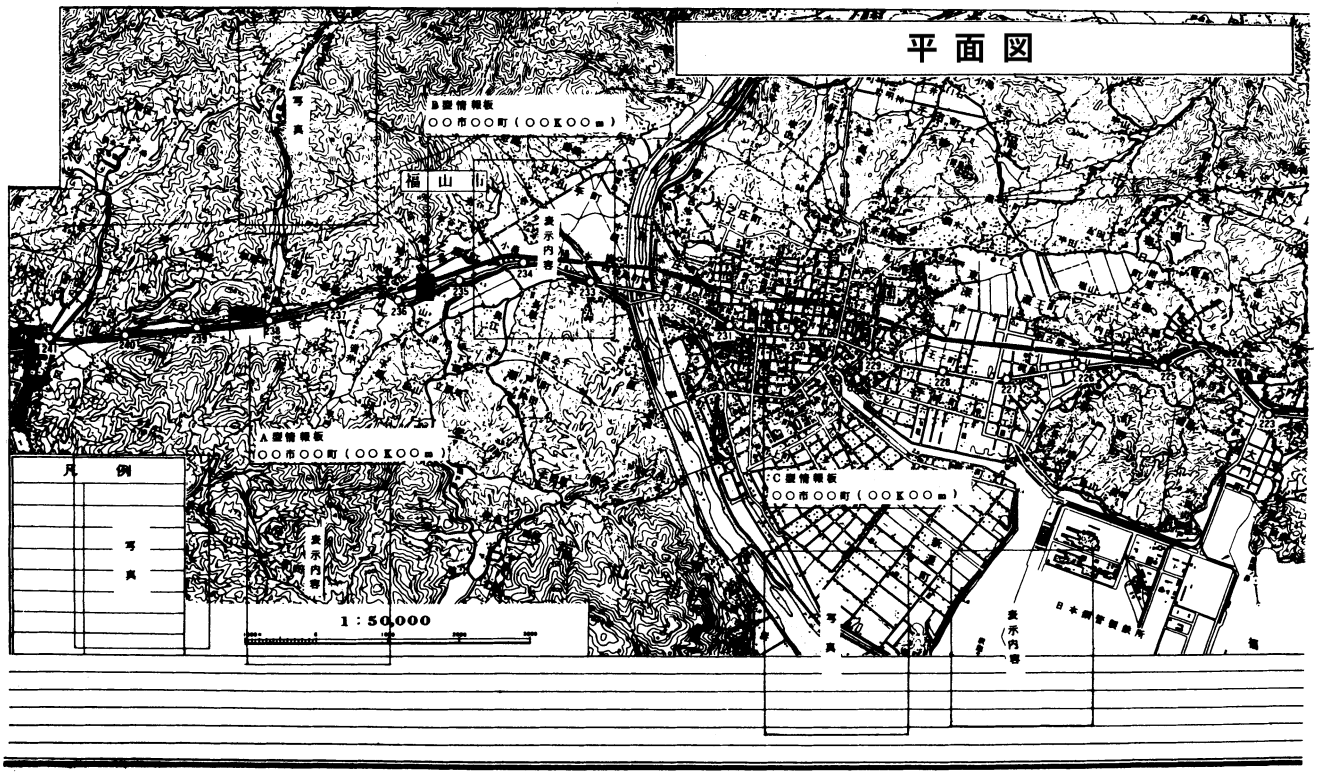
情報板歴	情報板規格	材質	支柱規格	基礎形状	工事費	製作会社
年月日						

板面表示内容

上段
中段
下段
（　cm×　cm）

表示内容		
上段	中段	下段

平面図



トンネル調書

No	路線名	トンネル名	箇所名	延長（m）	車道幅員（m）	建築限界高（m）	路面舗装種別	竣工年次	トンネル等級	換気方法	照明灯数	壁面の種別	摘要
													注：壁面の種別については、内装があればその種類ない場合は覆工と記入

トンネル台帳

路線名		図面番号		出張所名			
トンネル名		施工年次		場所	(km)		
延長				幅員構成		建築限界高	
設計業者				施工業者			

附属設備				
	照明設備		年 次	
	通報装置	電話　　台、押ボタン　　箇所、火災検知器　　箇所	年 次	
	非常警報装置		年 次	
	消火設備	消火器　　台、消火栓　　箇所	年 次	
	避難誘導設備		年 次	
	換気設備		年 次	
	その他		年 次	

（注）平面図、断面図、横断図を添付（B4判又はB5判横）する。

防 災 設 備 調 書（総括）

路線名		事務所名	

番号	図面対照番号	場所（km）	種類	延長	完成年月日	備考

注）1．番号は事務所別・路線別の一連番号を記載すること。
　　2．図面対照番号は、管内図（1／5万）番号を記載すること。

防災施設台帳

路線名		図面対照番号		出張所名

種類	石張	石積	ネット	コンクリート吹付け	コンクリート枠	コンクリートブロック		標準断面図	概要写真
	擁壁	ロックシェッド	防護柵	モルタル吹付け	洞門				
場所	(km)								
完成年月日		総工費							
延長	m								
面積	m^2								
構造規格									
使用材料 鋼材									
使用材料 鉄筋									
使用材料 コンクリート									
使用材料 その他									
使用材料 その他									

地質		展開図
塗装・補修歴等		
年 月		
年 月		
年 月		
年 月		
年 月		